

考試院の利用実態と周辺施設を含む居住形態

—ソウル市内の6つの考試院密集地を対象として—

主査 山中 新太郎^{*1}

委員 重枝 豊^{*2}, 全 映勲^{*3}, 趙 在赫^{*4}, 玄 昇憲^{*5}

著者らは、韓国ソウル市内の考試院密集地における居住形態を把握し、利用者の生活に合わせた都市居住のモデルを提案することを目的として一連の研究を行っている。本研究では、先行研究の成果をもとに、ソウル市内の考試院密集地における利用実態の特性及び周辺施設との関係性について考察する。各考試院密集地の考試院の利用実態を把握するため、考試院の管理者及び利用者に対する聞き取り調査を実施する。先行研究で特定したソウル市内の6つの考試院密集地について、立地特性や考試院及び周辺施設の分布を確認し、その結果をまとめた。

キーワード：1) 考試院, 2) 考試院密集地, 3) 考試院の利用実態, 4) 考試院及び周辺施設, 5) 居住形態

THE STATE OF USAGE AND DWELLING STYLE OF GOSIWON INCLUDING SURROUNDING FACILITIES

- Focused on six of Gosiwon dense areas in Seoul city -

Ch. Shintaro Yamanaka

Mem. Yutaka. Shigeeda, Yonghun Jeon, Jaehyuk Jo, Suenghun Hyun

We aim to clarify the dwelling style in the Gosiwon dense areas and to present an urban residential model of Gosiwon in Seoul, Korea. Based on the results of our previous research, we considered the characteristics and the relationships by the state of usage of Gosiwon and surrounding facilities in 6 Gosiwon-dense areas on this study. Firstly, we conducted a questionnaire survey for the managers and users of Gosiwon. Secondly, we confirmed the characteristics of the location and distribution of Gosiwon and surrounding facilities in 6 Gosiwon-dense areas in Seoul. Finally, we summarized the results as identified through this study.

1. はじめに

1.1 研究の背景

韓国消防庁で公開された予防消防行政資料統計^{文1)}によると、考試院の登録件数は統計が始まった2003年から2015年まで増加し続けた後、2016年から2019年までは件数が高止まりしている傾向である。そして、現在ある考試院の約5割はソウル市内に所在している。

ソウル市の考試院は市内全域に分布し、いくつかの密集地区を形成している。そして、考試院の利用者は国家公務員試験の受験生(以下、考試生)だけではなく、一般的な単身者にも広がりを見せていることが明らかになりつつある。韓国都市研究所の報告書(2013)^{文2)}によると、ソウル市で考試院を居住施設として利用している単身者は約15万人以上であると推計される。

こうした考試院に関しては様々な目的で研究が行われたが、考試院密集地に対する考試院や、その関連施設に関する利用実態は十分に把握できておらず、様々な考試院の利用形態を同一に取り扱わざるを得ない状況である。

る^{文3)}。

著者らの既往研究^{文4), 文5), 文6), 文7)}によると、考試院の施設形態はソウル市内でも地域によって異なっており、一般に考試村と呼ばれる地区の考試院では日常生活のための食堂などの機能を備えていない施設も存在することが分かった。

住宅として居住機能を満たしていない考試院の居住形態が日常生活で成立するためには、考試院だけではなく周辺の施設から足りない機能を補う必要がある。そして、考試院や周辺施設の関係を解明するためには、考試院の利用実態を把握する必要がある。

1.2 先行研究と本研究の位置付け

著者らは、考試院を現代における都市居住の一形態として捉え、考試院の登場から現在に至るまでの施設及び利用者の変質^{文8)}や、ソウル市における考試院の施設形態^{文9)}など、考試院の利用実態や居住形態を明らかにするための研究を進めている。

*¹ 日本大学 教授 博士(工学) *² 日本大学 特任教授 博士(工学) *³ 中央大学(韓国) 教授 博士(工学)

*⁴ 日本大学理工学研究科 博士後期課程 修士(工学) *⁵ 株) SUNLAB 建築士事務所 代表 学士(工学)

本研究は、その一環として、住総研の2016年度研究助成(No. 1614)^{文7)}から引き続き、ソウル市内の考試院密集地における考試院の利用実態に着目し、各考試院密集地の施設分布と居住形態を明らかにすることを目的としている。そこで、本稿では考試院密集地における考試院の利用実態と居住形式を把握するため、①利用者の属性と利用目的、②利用者の生活パターン、③考試院密集地における考試院と周辺施設の関係について考察し、その結果をまとめた。

1.3 本稿に関する先行研究の概要

本研究の目的である考試院の施設分布と居住形態の解明にあたって、著者らは下記のような先行研究^{文9)}を行った。本研究に関する理解を補うために、本稿と関係する先行研究の内容について、次の1)～3)にまとめる。

1) ソウル市における考試院の現状と調査対象

先行研究では、調査対象を特定するために2010年から2015年までのソウル市に登録されている考試院の情報(以下、考試院リスト)^{注1)}の変化を確認した。

その結果、図1-1で示すように、5年間で考試院の登録件数の増加率が100%を上回る行政区はソウル市の周縁部に位置していることが分かった。

2010年から2015年にかけて、ソウル市内の考試院は冠岳区・銅雀区・江南区・東大門区・永登浦区・西大門区の周辺に広がっている。著者らは、2015年の考試院リストを用いて、ソウル市の行政区域別の考試院登録数を

もとに、調査対象を特定した。

具体的には、ソウル市内の考試院密集地として、図1-2で示すように、冠岳区の新林洞(シンリンドン)(A)、銅雀区の鷺梁津洞(ノリヤンジンドン)(B)、江南区の駅三洞(ヨクサンドン)(C)、東大門区の里門洞(イムンドン)(D)、永登浦区の永登浦洞(ヨンドンボドン)(E)、西大門区の滄川洞(チャンチョンドン)(F)の6つの地区を調査対象に取り上げた。

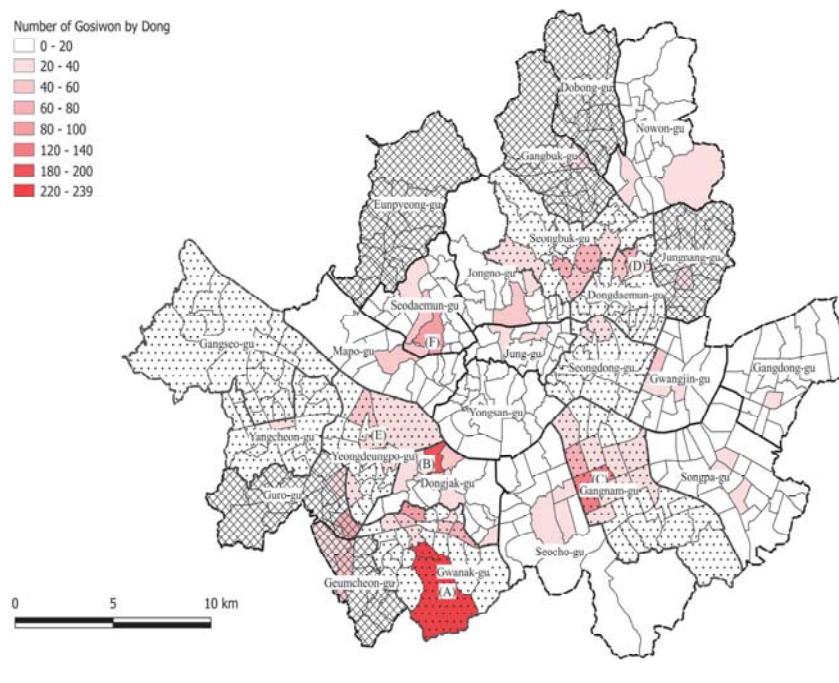
2) 考試院の面積情報から見た考試院の分類

2015年の考試院リストに登録されていた6,240件のうち、考試院の営業面積^{注2)}が確認できる5,887件について面積情報を分析した。その結果、考試院の営業面積の平均は389.24m²であった。営業面積としては、500m²未満の登録数が4,564件で全体の73%を占めており、そのうち200m²以上400m²未満の登録数が2,847件(46%)で、比較的小規模な考試院が多いことが分かった。

建物の延床面積のうち考試院が占める営業面積を把握するため、考試院リストの住所をもとに、建築物台帳から登記情報を収集し、建物全体と考試院の面積を分析した。建物全体のうち考試院の面積占有率が87.5%以上は考試院専用施設、それ以外は併用施設^{注3)}として、考試院の施設形態を2つに区分した。

ソウル市内の6つの考試院密集地について、考試院リストをもとに考試院の営業面積・施設形態を比較した。

その結果、冠岳区と銅雀区では営業面積が500m²以上の比較的大規模の考試院が多く、他の密集地に比べて専用施設の比率が高いことが分かった。



LEGEND		
District line	District name (区)	Rate of Changes
[Dashed line]	Mapo, Seodaemun, Jongno, Jung, Yongsan, Dongjak, Seocho, Gwangjin, Songpa, Gangdong-gu	増加率 0~59%
[Cross-hatch]	Seongbuk, Dongdaemun, Seongdong, Yangcheon, Yeongdeungpo, Gwanak, Gangnam-gu	増加率 59~100%
[Diagonal hatch]	Enpyeong, Gangbuk, Dobong, Jungnang, Guro, Geumcheon-gu	増加率 100%以上
District by dong (洞)	District by gu (区)	Number of Gosiwon
(A) Sillim-dong (新林洞)	Gwanak-gu (冠岳区)	772 (12.4%)
(B) Noryangjin-dong (鷺梁津洞)	Dongjak-gu (銅雀区)	214 (3.3%)
(C) Yeoksam-dong (駅三洞)	Gangnam-gu (江南区)	169 (2.7%)
(F) Changcheon-dong (滄川洞)	Seodaemun-gu (西大門区)	94 (1.5%)
(E) Yeongdeungpo-dong (永登浦洞)	Yeongdeungpo-gu (永登浦区)	79 (1.2%)
(D) Imun-dong (里門洞)	Dongdaemun-gu (東大門区)	73 (1.2%)

図1-1 ソウル市の行政区域別の考試院の登録件数と増加率(2015)※ソウル災難本部からの考試院リストを基に趙が作成^{注4)}

一方で、江南区や東大門区、永登浦区、西大門区では考試院の営業面積が500m²未満の比較的小規模の施設が多く、そのうちほとんどは併用施設であった。

つまり、ソウル市内の考試院密集地は、大規模の考試院や考試院専用施設が多い地区と、500m²未満の併用施設の多い地区に区分できた。

3) 考試院密集地における考試院の分布

先行研究では、ソウル市内の考試院密集地における考試院の分布の特徴を明らかにするため、GISを用いて図1-2で示すように6つのエリア(A～F)を対象に考試院の施設形態の分布を比較した。そこでは、広域図(縮尺1/10,000)として全体的な分布様子と立地条件を示した上、6つエリアにおける考試院の施設形態やその距離などが分かる部分図(縮尺1/2,500)を示し、各密集地の特徴を記述した。

その結果、冠岳区では新林洞のソウル大学周辺(A)に、銅雀区では鷺梁津洞の鷺梁津駅周辺(B)に、江南区では駅三洞の地下鉄江南駅と駅三駅周辺(C)に考試院が密集している。

また、東大門区では里門洞の慶熙大学などの大学や回基駅周辺(D)に、永登浦区では永登浦洞の永登浦駅周辺(E)に、西大門区では滄川洞の延世大学などの大学や地下鉄駅周辺(F)に考試院が多く分布している。

数多くの併用・専用施設が混在する新林洞(A)と、比較的大規模の考試院専用施設が密集する鷺梁津洞(B)では、考試の受験生活に関わる考試塾や読書室などが考試院の周辺に分布しており、駅三洞(C)では予備校や語学塾など学生や就活中の若年単身者が求められる施設が集まっていた。

また、里門洞(D)と滄川洞(F)は、大学が集まる地域で、大学生や留学生など学生の生活に相応しい施設が分布している。

一方、永登浦洞(E)では日雇い労働者を派遣する事務所などが集まっていた。

このように、考試院の密集する地域では区画の形状や交通の利便性、地形などの立地条件は異なるものの、各地域で共通として、考試院の利用者が日常生活のために必要とする施設が考試院の周辺に分布していた。

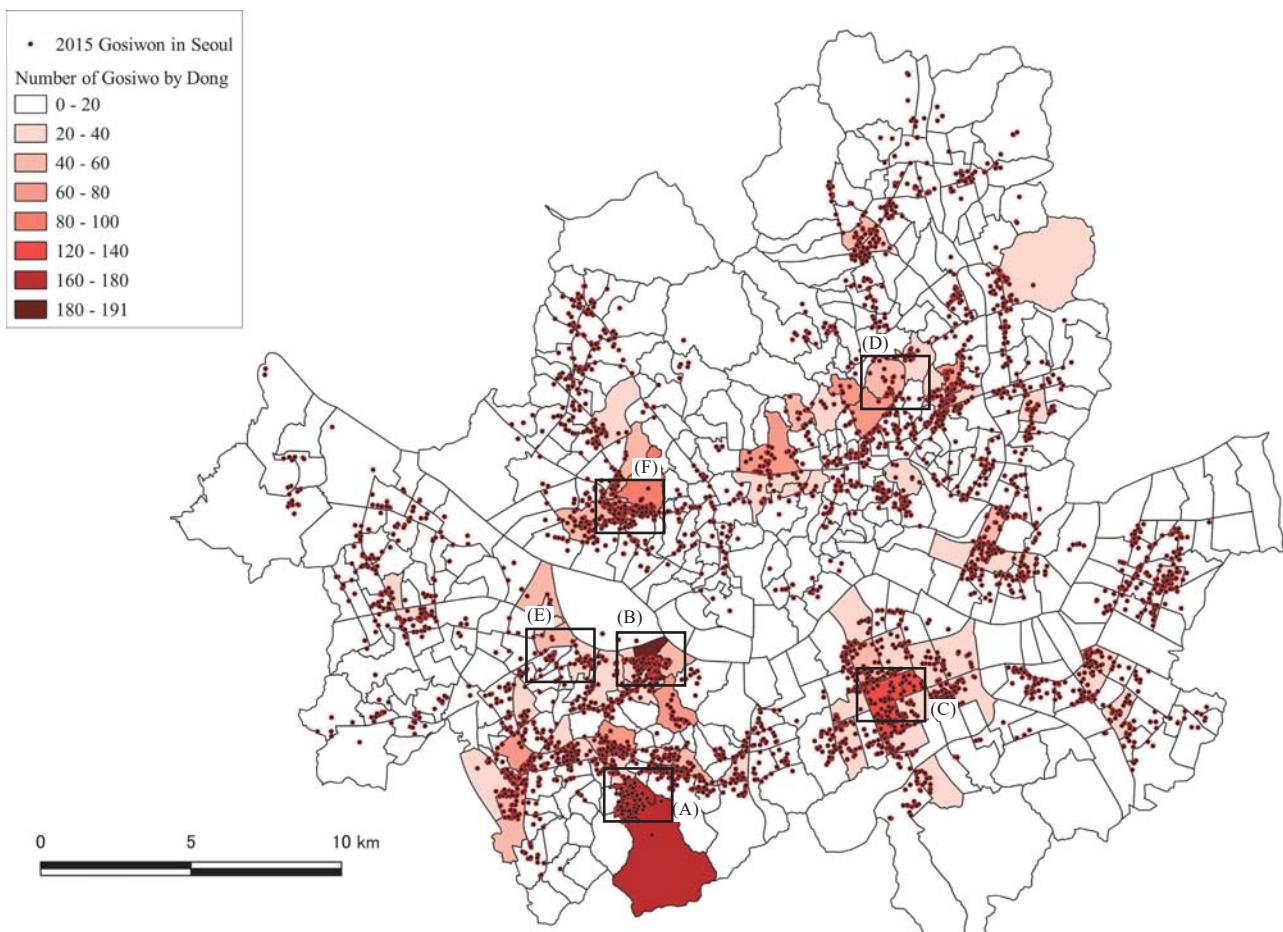


図1-2 ソウル市内考試院業の登録住所に基づいた考試院の分布（2015）^{注4)}

1.4 研究の目的と方法

前述のように先行研究^{文9)}では、ソウル市内の考試院の現状と考試院密集地の特徴を明らかにするため、考試院の施設形態を分類し、ソウル市内で6つの考試院密集地における施設形態ごとの分布を明らかにした。

本研究では、考試院や考試院の密集地についての建築計画的あるいは地域計画的な実態把握の基礎的な知見を得ることを目的に、現在のソウル市における考試院の利用実態や考試院密集地における立地的特性について、以下のように分析する。

第2章では、6つの考試院密集地における考試院に対して施設の管理・運営や利用実態に関する把握するため、後述のように考試院の管理者や利用者に対して聞き取り調査を実施し、その結果をまとめる。

第3章では、考試院や周辺施設の分布図を作成した上、第2章の利用実態調査の結果をもとに、各考試院密集地における考試院と周辺施設の関係を解明する。そして、各考試院密集地における居住形態について考察する。

第4章では、これらの分析を総括して本研究の成果をまとめる。

1.5 研究対象と調査の流れ

本研究では、先行研究に引き続き、ソウル市内で考試院の密集する地域を調査対象として考試院や周辺施設の利用実態について調査した。

表1-1で示すように、現地調査に当たっては考試院リストとともに、GISを用いて考試院の分布図を作成し、6つの考試院密集地における考試院の利用実態に関する聞き取り調査を実施した。

聞き取り調査に当たっては、各考試院密集地に所在する考試院の管理者に対して、研究協力の依頼を行った。そして、研究協力に同意した施設に対して聞き取り調査と実測調査を実施した。



図1-3 ソウル市行政区域(現地調査の地域名と調査件数)

聞き取り調査については、共通の一般情報6項目、管理者及び運営者向けの施設管理及び運営に関する質問21項目、利用者向けの利用目的や生活に関する質問の20項目で構成した。

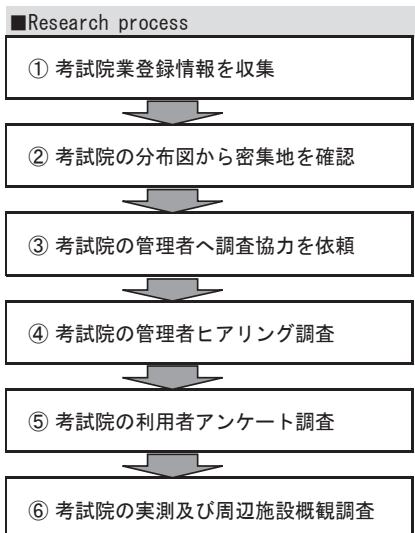
図1-3で示すように、現地調査は2018年11月から2019年10月までの2年にわたって4回を実施した。

その結果、総40ヶ所の考試院の管理者から調査協力の同意を得て、そのうち考試院密集地毎に6ヶ所で、合計36ヶ所の考試院の実測調査ができた。

また、調査協力の同意を得た管理者及び運営者から40件のヒアリング調査の結果が得られており、考試院の利用者に対しては、密集地毎に20件で、合計120件のアンケート調査結果が得られた。

本稿では、それらの結果をまとめて考試院の利用実態に基づいて各密集地における考試院や周辺施設の分布と居住形態に関する考察を行う。

表1-1 調査方法と流れ



初回以降は
③～⑥の手順で
行う

出典	方法	結果
ソウル災難本部	情報公開システムで申請	考試院リスト入手(2015年登録施設)
考試院リスト(2015年)	考試院リストの住所を基にGISを用いて分布図を作成	ソウル市で登録された考試院の現状を確認
考試院リストの住所	考試院密集地の考試院を訪問し管理者へ研究協力の依頼をする	総40ヶ所の考試院管理者から協力の同意を得た
調査協力同意書	管理者に考試院の施設及び運営状況に関する聞き取り調査を実施	3回の調査で合計40件
利用実態調査書	調査協力を得た考試院の利用者に対してアンケート調査を実施	3回の調査で合計120件
考試院の分布図(GIS)	① 考試院の間取り実測調査 ② 利用者の生活関連施設の概観調査	①36件の間取り図を作成 ②GISで施設分布図を作成

2. 考試院の利用実態からみた考試院密集地の居住形態

先行研究(No. 1614)では、概観調査を行ったソウル市内の考試院8ヶ所を事例として取り上げ、利用情報を紹介した。また、考試院密集地の中で鷺梁津考試村を対象として、利用者4名の生活パターンを紹介した。

本研究では、考試院密集地における考試院の利用実態と地域ごとの違いを確認するため、図1-2で示す6つの地域を対象として、考試院の管理者及び利用者向けのヒアリング・アンケート調査を行った。調査に当たってはGIS上で考試院の密集エリアを特定し、現場の半径500M内の考試院を調査員が立ち入り、2018年9月から2019年10月まで、1回の予備調査と3回の現地調査を実施した。その結果を図2-1、図2-2、図2-3と表2-1に示す。

2.1 考試院利用者の属性と利用の目的

冠岳区新林洞(A)に所在する考試院では考試生や大学生が半分を占めた。そして、単身の会社員や就職活動者が利用していることが分かった。この地域では考試院に居住する理由として、生活の必須条件である睡眠や食事を挙げた回答が約4割で、仕事・学習が3割であった。

銅雀区鷺梁津洞(B)では、主に考試生が考試院を利用しており、考試生以外の利用者は少なかった。ここでは主に仕事・学習を理由とした回答が約6割を占めており、食事を理由とした回答はなかった。

江南区駅三洞(C)では、若年の就職活動者や大学生の利用者が多く、会社員や留学生の利用も確認できた。ここでも新林洞(A)と同様に睡眠や食事の理由が多いが、仕事・学習を理由にした回答も多い。

東大門区里門洞(D)では、留学生や大学生の利用者が大半で、考試生やその他の利用者は少なかった。この地域では睡眠や食事を理由とした回答が半分を超えた。

永登浦区永登浦洞(E)では、考試生や大学生の利用は少なく、日雇い労働者や生活保護者が大半を占めた。この地域では睡眠と食事を理由とした回答が7割以上で他の地域に比べて非常に多い。

西大門区滄川洞(F)では、大学生や留学生の利用が半分を占めるものの、生活保護者などの比率も多く、様々

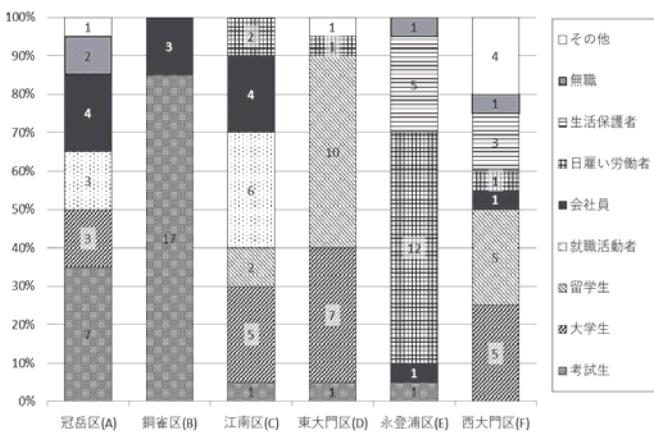


図2-1 各地区的考試院利用者の職業(N=120)

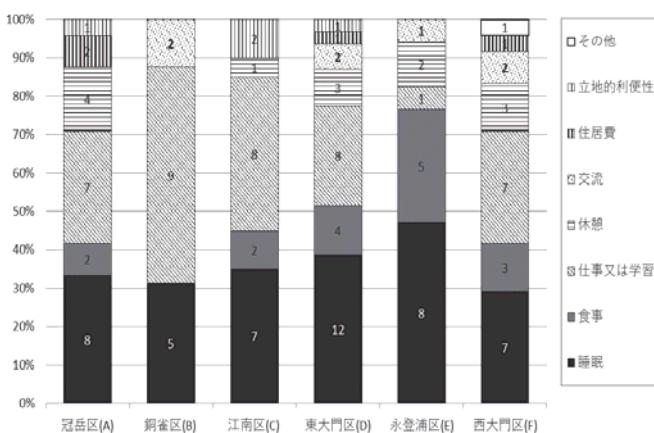


図2-2 考試院に居住する理由(N=132, 複数回答)

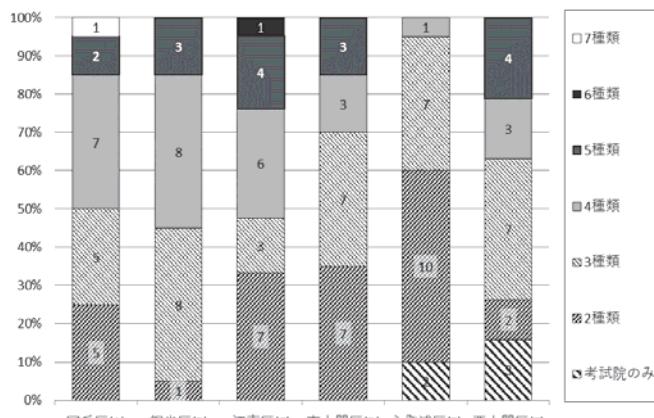


図2-3 日頃の生活で利用する施設の種類(N=120)

表2-1 考試院密集地における考試院利用実態の比較

区分	回答数(件)		主な利用者	管理者特徴	利用期間	滞在時間	利用する地域施設	関連施設
	管理者	利用者						
冠岳区新林洞(A)	8	20	大学生・会社員	運営者	1年以上	22時～8時 (10時間)	4ヶ所以上	考試塾、 読書室
銅雀区鷺梁津洞(B)	8	20	考試生	考試生	1年以上	22時～6時 (8時間)	4ヶ所以上	考試塾、 読書室
江南区駅三洞(C)	6	20	就職活動・大学生	管理職員	1年以上	22時～8時 (10時間)	3ヶ所以下	職場、 予備校
東大門区里門洞(D)	6	20	留学生・大学生	運営者	1年未満	21時～9時 (12時間)	3ヶ所以下	大学
永登浦区永登浦洞(E)	6	20	日雇い労働者	管理職員	2年以上	18時～7時 (13時間)	2ヶ所以下	職場(職業紹介所)
西大門区滄川洞(F)	6	20	留学生・大学生	運営者	1年未満	21時～10時 (13時間)	3ヶ所以下	大学

の利用者が混雑することが確認できた。ここでは新林洞(A)と同様に睡眠と食事の理由がおよそ4割で、仕事・学習は3割程度であった。

2.2 考試院利用者の生活パターン

利用者アンケートの結果から、各考試院密集地における考試院利用者の生活パターンを把握するために、考試院の滞在時間と生活のために利用する地域施設について分析した。その結果、表2-1で示すように、各密集地で考試院利用者の滞在時間と利用する地域施設の種類が異なることが確認できた。利用者のほとんどが考試生である銅雀区鶯梁津洞(B)では、朝6時頃に考試院から出かけて夜10時以降に戻るパターンが大半で、日頃は街中の考試塾や読書室を利用しながら受験生活を過ごしていた。

一方、永登浦区永登浦洞(E)の考試院利用者は朝7時頃に出かけてから18時頃に戻ってくるパターンが多く、一日の半分以上を考試院の中で過ごしていることが分かった。

なお、永登浦区永登浦洞(E)や西大门区滄川洞(F)で考試院に居住している生活保護者は、日頃のほとんどの時間を考試院の中で過ごしていて、ひきこもりのような生活パターンが多かった。

2.3 生活パターンから見た考試院の利用実態

以上で示したように、考試院の利用者は地区別に異なっており、利用者によって考試院の利用実態が異なっていた。しかし、どの地区でも居住者は考試院を主に就寝のために利用していることが分かった。

表2-2 鶯梁津考試村における考試院居住者の生活パターン

区分	N-001居住	N-002居住	N-008居住	施設情報なし
	Dさん (滞在5年)	Cさん (滞在2年)	Bさん (滞在2年未満)	Aさん (滞在6か月未満)
午前	07:30~08:30	07:00~07:31	07:00~07:30	
	授業(考試塾)	朝食(江南教会)	朝食(江南教会)	
	08:30~09:30	08:00~09:00		
	朝食(考試食堂)	勉強(読書室)		
	09:30~11:30	09:00~12:30	08:00~13:15	11:00~12:00
	勉強(読書室)	授業(考試塾)	勉強(考試院)	授業(予備校)
午後	11:30~12:30	12:30~13:30		12:00~13:00
	昼食(飲食店)	昼食(考試食堂)		昼食(飲食店)
	13:00~14:00		13:15~17:45	13:00~18:00
	勉強(読書室)		勤務(考試院)	勉強(読書室)
	14:00~18:00	14:00~18:00		
	授業(考試塾)	授業(考試塾)		
夕方	18:00~19:00	18:00~19:00	17:45~18:30	18:00~19:00
	夕食(考試食堂)	夕食(考試食堂)	夕食(考試院)	夕食(飲食店)
	19:00~21:00	19:00~21:00	18:30~24:00	19:00~23:00
	勉強(読書室)	勉強(読書室)	勉強(考試院)	勉強(読書室)、休憩(リヤード)
	21:00~23:00	21:00~23:00		
	グループスタディ(スタディルーム)	グループスタディ(スタディルーム)		
	23:00~	23:00~	24:00~	23:00~
	就寝(考試院)	就寝(考試院)	就寝(考試院)	就寝(考試院)

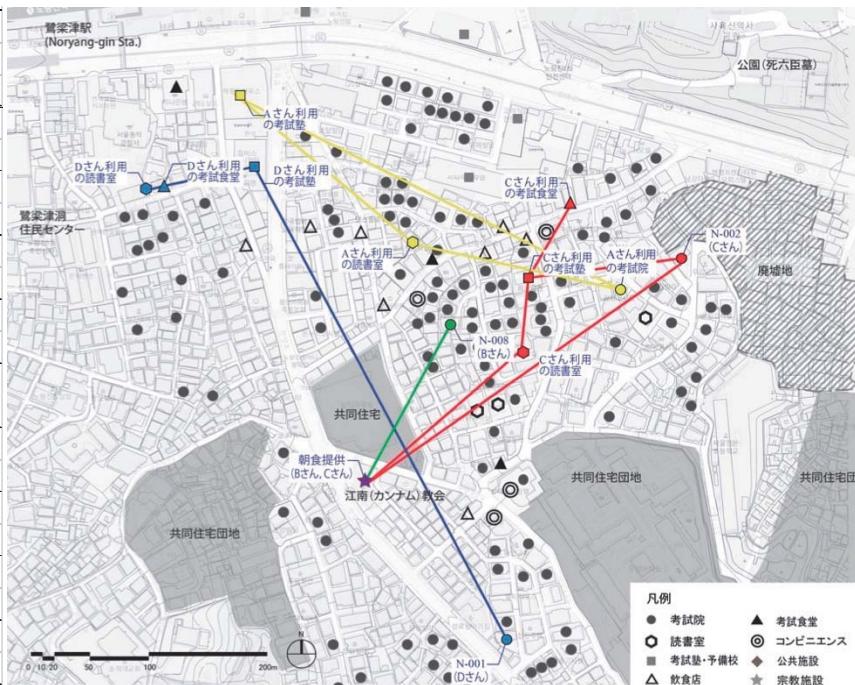


図2-4 鶯梁津考試村における考試院と考試院居住者の利用施設
(表2-2のアンケート結果を示す)

3. 考試院密集地における施設の分布と居住形態

前述のように考試院の居住者に関する聴き取り調査では各密集地における考試院の利用実態が明らかになった。その結果、考試院は就寝だけで利用されており、利用者は日常生活を過ごすために考試院以外の周辺施設が必要と考えられる。そこで、利用実態に関する聴き取り調査をもとに、考試院密集地における考試院や周辺施設の分布を把握し、考試院と周辺施設の関係について考察する。

3.1 考試院密集地における考試院や周辺施設の分布

先行研究^{文9)}から引き続き図1-2で示すようにソウル市内の考試院密集地における考試院や周辺施設の分布を調査した。その結果を表3-1や表3-2で示す。

1) 冠岳区新林洞(表3-1_A)

ソウル大学周辺の約100haの広い範囲に分布している。このエリアでは、広い範囲に考試院の密集が見られるが、専用施設はある程度の距離を離れて分散している。このエリアでは、考試院専用施設や面積占有率が60%以上の建物が多く、老朽化した建物が多く見られた。

新林洞一帯には考試院を含めて、月極めで利用する読書室(専用机・棚のある自習コーナーを個人に貸し出す施設)や食堂、考試塾、考試関連の古本屋など、公務員試験などを準備する考試生に必要な施設が位置している。

考試院の周辺では、考試生らが利用する読書室が密集していた。また、考試受験のための考試塾が分布しており、この地域の考試院利用者である考試生は塾と読書室で日頃の受験生活を過ごしていた。

2) 銀雀区鷺梁津洞(表 3-1_B)

鷺梁津駅周辺の幹線道路沿いを中心に約 50ha の範囲で分布している。鷺梁津洞では他の地域に比べて建物の規模にはばらつきがあることと、狭い範囲に考試院が密集している様子が確認できる。さらに、考試院専用施設が多く、それらも密集していることが特徴である。

幹線道路沿いには大規模な予備校や教員・公務員試験の塾が密集している。そして、塾の周囲には考試院はもちろん読書室やグループで勉強するカフェ、ジムなどの考試関連施設が分布していた。

特にこのエリアでは、キッチンの機能を備えていない考試院も確認されており、居住者は日常生活で考試院の周辺にある「考試食堂」などで食事をしている。このように鷺梁津洞では新林洞と同じ仕組みで月極めの読書室や食堂などの施設が地域内で考試院と連携関係を持って分布している。そこで、考試村では日常生活のために必要な単機能の施設が地域内で連携する仕組みで居住形態が成立されていることが分かった。

3) 江南区駅三洞(表 3-1_C)

オフィス街と繁華街として有名な駅三洞では、新林洞や鷺梁津洞のような密集がみられず、100ha 以上の広い範囲に分散している。この地域で考試院は幹線道路沿いではなく、8m 以下の道路沿いに分布している。また、考試院は併用施設が多く、部分的に 10 件未満の施設のまとまりがみられる。駅三洞一帯には高層オフィスと共に、語学塾や予備校用の建物が分布している。このエリアでは、一般的な飲食店やカフェ、コンビニエンスストアなどは数多く分布しているものの、新林洞や鷺梁津洞のような地域施設との連携関係は見られない。

一方、最近予備校の周辺には、月々の料金が 10 万ウォン以上で予備校生(大学浪人)専用の「学舎(ハクサ)」と呼ばれる私設の寮が増えている。近年、このエリアの考試院では海外からの留学生の利用が増加し、施設内では周辺施設や地域に関する英語の案内板なども見られた。

4) 東大門区里門洞(表 3-2_D)

大学や駅などの拠点を中心に、5 ~ 6 件の考試院が小規模なまとまりを形成している。ソウル市立大学が位置する典農洞一帯や、慶熙大学と韓国外国语大学が位置する里門洞・回基洞一帯の大学の周辺に考試院が分布している。

駅の周辺には伝統市場と商業施設が集中しており、考試院の分布するエリアでも数多くの商業施設が存在するものの、考試院と連携関係を持った施設はみられない。

考試院の利用者は大学生や留学生が大半を占めており、考試生はほとんどいない。また、考試村でみられる考試塾や読書室はほとんどない。近年、このエリアの考

試院では、駅三洞と同様に海外からの留学生の利用者が増加しており、考試院の利用する留学生からは個室でプライバシーが確保できるため、考試院の方が学生寮よりも人気がある。

5) 永登浦区永登浦洞(表 3-2_E)

永登浦洞には、永登浦駅周辺に百貨店や商業施設、伝統市場が立ち並び、繁華街を形成している。考試院は建物の上層部に所在する併用施設が多く、10 件未満の小規模のまとまりが確認できるものの、新林洞や鷺梁津洞のように密集する分布ではない。

考試村でみられる考試関連の読書室、月極め食堂は分布していないが、職業紹介所が幹線道路沿いに立ち並んでいることが特徴である。考試院の利用者に関する聴き取り調査では、主に日雇い労働者や生活保護者が考試院に居住していることが分かった。

周辺には、低所得の生活保護者に無料で食事を提供する食堂や、中国からの移住者に対する商店などが見受けられた。このエリアの考試院は周辺施設と連携関係は確認できないものの、考試院の居住者は地域の施設と密着した関係を持っているといえる。

6) 西大门区滄川洞(表 3-2_F)

大学と地下鉄駅の間のエリアに多く考試院が分布しているものの、考試村のように密集する様子はみられない。10 件未満の考試院併用施設がまとまりを形成しており、考試院専用施設はほとんど分布しない。

このエリアでは考試塾や読書室はほとんどないが、地下鉄駅と大学の周辺は数多くの商店が分布し、繁華街が形成されている。

この地域の考試院では大学生や留学生、無職、生活保護者などの様々な居住者が混在しており、他の地域に比べて利用実態が複雑な状況である。

しかし、考試院と周辺施設の連携関係や生活に密着した施設は確認できない。

考試院の管理者に対する聴き取り調査より、近年江南区や東大門区の密集地と同様に、海外からの留学生や移住者が増加していることがわかった。

3.2 施設の分布から見た考試院密集地の特徴

以上のように、ソウル市内で考試院の密集地する 6 つの地域では、考試院の施設形態や周辺施設の分布が異なることを明らかにした。

考試院の利用者として考試生が多い冠岳区新林洞(A)や銀雀区鷺梁津洞(B)では、他の地区に比べて考試院の専用施設が多く、考試受験のための考試塾や読書室などが考試院の周辺に分布している。このエリアは「考試生の多いエリア」といえる。

一方で、大学生の利用者が多いた東大門区里門洞や西大門区渋川洞に所在する考試院は、そのほとんどが併用施設で、雑居ビルの上部に位置していた。大学周辺のこの地区は「大学生の多いエリア」と呼ぶ。

また、労働者などの利用者が多いた江南区駅三洞や永登浦区永登浦洞一帯の考試院も、雑居ビルの上部に位置する併用施設が多く、考試関連の塾や読書室は見られない。特に、日雇い労働者の利用が多い永登浦洞では職業安定所の周辺に考試院が密集していることが分かった。このエリアは「単身居住者の多いエリア」といえる。

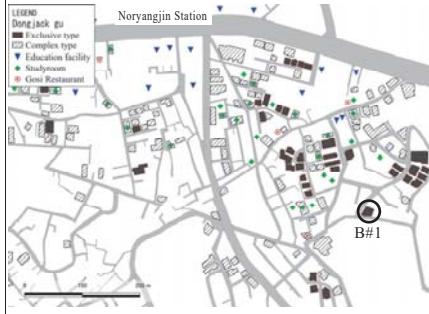
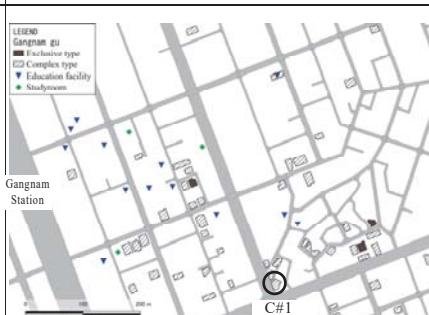
3.3 考試院密集地における考試院の居住形態

考試院の利用実態に関する聞き取り調査と周辺施設

の概観調査では、各考試院密集地の居住環境が確認できた。それらの結果をまとめ、表3-1や表3-2で示すように、考試院の利用実態と施設の分布から、考試院密集地における居住形態について考察する。

冠岳区新林洞(A)と銅雀区鷺梁津洞(B)は、「考試生の多いエリア」で、考試受験生活に関連する施設が考試院の周辺に分布する。考試院は主に寝室として機能し、周辺の食堂や読書室などが受験生活の必要に応じて利用されている。これらの周辺施設は考試院と連携関係を持っている、連携仕組みにより安価の料金で利用できる特徴が見られた。ここでは考試院と周辺施設が受験生活を支えている居住形式が見られる。これを「周辺施設連携型」と呼ぶ。

表3-1 ソウル市の考試院密集地における考試院と周辺施設の分布-1

考試院密集地	考試院及び周辺施設の分布 [scale 1 : 2,500] ※文9)に掲載した考試院の分布をもとに著者らが作成	考試院の事例 (外観 / 間取り図) ※文9)に掲載した考試院の分布をもとに著者らが作成	周辺施設の事例 (概観調査) ※2018年~2019年の現地調査により著者らが作成
(A) 冠岳区新林洞一帯の特性	 <p>(A-1) 考試院の分布図</p> <p>(A-2) 考試塾、読書室などが分布する。小規模の併用施設と専用施設が混在する。若年の単身世帯の比率が非常に高い地域である。</p>	<p>※ Case_A#1 考試院 併用施設 【-----】考試院部分 (3階~5階) 延床面積 : 1045.29 m² 考試院の面積 : 488.49 m²</p>  <p>A#1_Floor Plan (3F) 部屋数 : 62 室 床面積 : 162.83 m² 空き部屋 : 9 室 (2018 年 10 月) 個室の面積: 4.4 m² 廊下幅 : 0.9m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ・シャワー室 Study room ►: 入口</p>	  <ul style="list-style-type: none"> ・考試食堂：月極めや食券で利用する食堂で、利用者は考試生が多いが、地域の住民も利用する。 ・読書室：月極めの料金で利用する自習室で、主な利用者は考試生である。 ・考試塾：高級国家公務員試験向けの考試塾が分布している。
(B) 銅雀区鷺梁津洞一帯の特性	 <p>(B-1) 考試院の分布図</p> <p>(B-2) 考試塾、読書室などが多数分布する。比較的狭い範囲に考試院が密集して分布する。考試生が最も多い地域である。</p>	<p>※ Case_B#1 考試院 専用施設 【-----】考試院部分 (地下 2 階 ~ 6 階) 延床面積 : 1498.33 m² 考試院の面積 : 1482.57 m²</p>  <p>B#1_Floor Plan (B2F) 部屋数 : 200 室 床面積 : 282.5 m² 空き部屋 : 16 室 (2018 年 10 月) 個室の面積: 3.8 m² 廊下幅 : 1.1m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ・シャワー室 Study room ►: 入口</p>	  <ul style="list-style-type: none"> ・考試食堂：月極めや食券で利用する食堂で、利用者は考試生が多いが、地域の住民も利用する。 ・読書室：月極めの料金で利用する自習室で、主な利用者は考試生である。 ・考試塾：幹線道路沿いには考試関連の専門塾が立ち並んでいる。
(C) 江南区駅三洞一帯の特性	 <p>(C-1) 考試院の分布図</p> <p>(C-2) オフィス、予備校や語学塾、繁華街が混在する。3~5件の小規模で集まっている。単身世帯の比率が高い地域である。</p>	<p>※ Case_C#1 考試院 併用施設 【-----】考試院部分 (3 階 ~ 4 階) 延床面積 : 1004.25 m² 考試院の面積 : 400.9 m²</p>  <p>C#1_Floor Plan (3F) 部屋数 : 47 室 床面積 : 200.45 m² 空き部屋 : 4 室 (2019 年 8 月) 個室の面積: 3.6 m² 廊下幅 : 1.0m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ・シャワー室 O: 管理室 ►: 入口</p>	  <ul style="list-style-type: none"> ・就業：オフィスや商業施設などの施設が集まっている。 ・塾：語学塾や予備校などが密集している。 ・その他：繁華街として有名なエリアで、飲食店や商業施設などが多く、いつも人波で混みあう。 <p>考試院は就寝のために利用されており、周辺施設は考試院居住者の必要に応じて利用されている。考試院と連携する施設は見られない。</p>

東大門区里門洞(D)や西大門区滄川洞(F)の大学周辺は「大学生の多いエリア」で、考試院と周辺施設の連携する仕組みはみられない。このエリアの考試院は安くて便利的に利用できるため、主に大学生や留学生が居住施設として利用しており、大学に通う時期に合わせて利用される特徴がある。ここでは、考試院の居住者が大学施設を考試院以外の居場所として利用できることで、このような居住形式を「大学施設活用型」と呼ぶ。

江南区駅三洞(C)や永登浦区永登浦洞(E)一帯は、「単身居住者の多いエリア」で、考試院利用者の生活に応じた施設が考試院の周辺に分布しているものの、各施設間の連携関係はみられない。このエリアの主な考試院居住である単身労働者は、比較的長期間居住する傾向がある。そのため、考試院では利用者に簡単な食材を提供するな

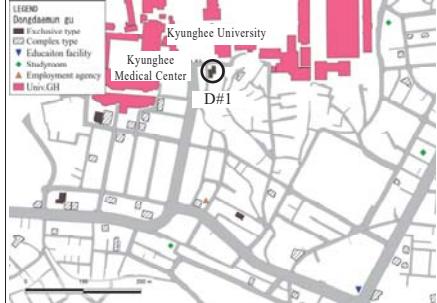
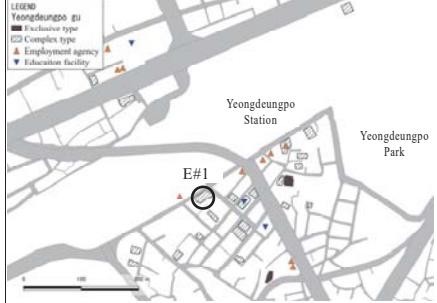
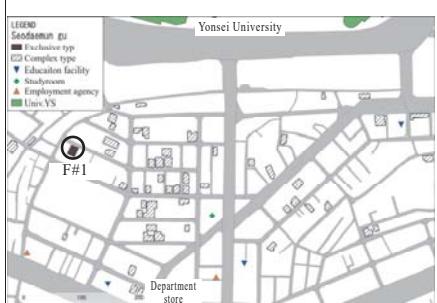
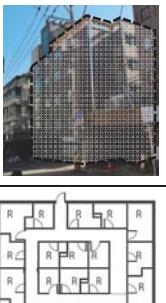
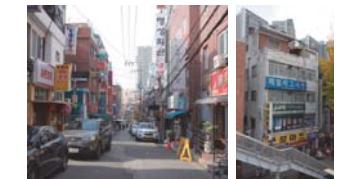
ど、生活のために必要なサービスを提供する施設が多い。しかし、経済的な理由で考試院以外の施設はほとんど利用せずに考試院に引きこもって過ごす人もいる。このエリアでみられる考試院の居住形式を「独立分離型」と呼ぶ。

4.まとめ

4.1 本研究による考察

本研究では、ソウル市内の6つの考試院密集地を対象にした管理者と利用者への聴き取り調査と考試院の周辺施設の概観調査を行い、考試院居住者の生活パターンと各密集地における施設分布や居住形態を明らかにした。その結果、各地区で利用者の属性により利用実態が異なること、各密集地における考試院の周辺施設は考試院利

表3-2 ソウル市の考試院密集地における考試院と周辺施設の分布-2

考試院密集地	考試院及び周辺施設の分布 [scale 1 : 2,500] ※文9)に掲載した考試院の分布をもとに著者らが作成	考試院の事例 (外観 / 間取り図) ※文9)に掲載した考試院の分布をもとに著者らが作成	周辺施設の事例 (概観調査) ※2018年~2019年の現地調査により著者らが作成
(D) 東大門区 里門洞一 帯の特性	 <p>(D-2) 小規模の考試院併用施設が多い。大学や医療院、電車駅の周辺に小規模の集まりが形成されている。</p>	 <p>※ Case_D#1 考試院 専用施設 [- - -] 考試院部分 (地下1階~5階) 延床面積 : 466.48 m² 考試院の面積 : 466.48 m²</p> <p>D#1_Floor Plan (2F, 5F) 部屋数: 70室 床面積 : 75.07 m² 空き部屋: 10室 (2019年8月) 廊下幅 : 0.9m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ・シャワー室 O: 管理室 ▶: 入口</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 大学: 1960年代から慶熙大学や韓國外国语大学などの大学が位置している。 大学敷設病院: 慶熙大学の敷設病院では看護師を対象に定期的研修プログラムを実施しており、研修参加者は短期間の居住地として考試院を利用している。 その他: 大学の周辺には飲食店
(E) 永登浦区 永登浦洞一 帯の特性	 <p>(E-2) 日雇い労働者が多い。駅周辺に小規模の考試院併用施設が分布する。駅の北側には繁華街、南側には住宅街が形成されている。</p>	 <p>※ Case_E#1 考試院 併用施設 [- - -] 考試院部分 (4階) 延床面積 : 1833.73 m² 考試院の面積 : 367.03 m²</p> <p>E#1_Floor Plan (4F) 部屋数: 50室 床面積 : 367.03 m² 空き部屋: 10室 (2019年10月) 廊下幅 : 0.9m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ・シャワー室 O: 管理室 ▶: 入口</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 職業安定所: 駅周辺や幹線道路沿いに数多くの職業安定所が分布している。 永登浦市場: 1950年代に形成された在来市場で、現在も300ヶ所以上の店舗が立ち並んでいる。 その他: 駅と市場を中心に飲食店などの繁華街が形成されている。
(F) 西大門区 滄川洞一 帯の特性	 <p>(F-2) 幹線道路の裏側に考試院の併用施設が多い。地下鉄駅と大学の間の広いエリアに様々な商業施設と住宅が混在する。</p>	 <p>※ Case_F#1 考試院 専用施設 [- - -] 考試院部分 (地下1階~4階) 延床面積 : 771.32 m² 考試院の面積 : 692.92 m²</p> <p>F#1_Floor Plan (3F) 部屋数: 63室 床面積 : 166.92 m² 空き部屋: 5室 (2019年8月) 廊下幅 : 1.0m R: 個室 K: 施設内食堂 T: トイレ O: 管理室 ▶: 入口</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 大学: 近代以前から延世大学や梨花女子大学が所在しており、1960年代には西江大学も位置している。 繁華街: 地下鉄駅から大学の間の広い範囲に飲食店や商店が立ちならんで、賑やかな繁華街が形成されている。

用者の生活に影響を及ぼしていることが明らかになった。

すなわち、①地域別に主な利用者の属性が異なっていること、②考試院の居住者が生活のために利用する施設は利用者の属性により異なっていること、③考試院の施設形態と分布は考試院の利用実態により異なることである。これらの結果をまとめて、考試院の居住形態を「周辺施設連携型」、「大学施設活用型」、「独立分離型」に区分し、多様化の進むソウル市の考試院の特性を、都市居住の視点から明確にすることことができた。

4.2 今後の展望

今後は、本研究で明らかになった考試院密集地における3つの居住形式を踏まえ、地域計画的な観点から、周辺施設を含めた都市居住のモデルの提案に発展させていきたい。

＜注＞

- 1) ソウル市内で考試院業として登録されている考試院の情報は、毎年ソウル災難本部^{文10)}により作成・管理されている。本稿ではこれを考試院リストと呼ぶ。考試院リストには、登録された考試院の「名称」、「住所」、「考試院の営業面積」などが記載されている。尚、考試院リストでは、個人情報に当たる詳細な住所や営業面積は公開されていないが、2015年の考試院リストに限り、ソウル災難本部より研究目的での使用を認められている。本稿では、それを元に考試院の所在地のプロットや営業面積の抽出を行なっている。
- 2) 考試院リストに記載される「考試院の営業面積」は、建物の中で考試院の用途として運営されている延床面積を指し、建物内の他用途施設の面積や共用の階段室と機械室などの面積は除外する。考試院の営業面積は多衆利用業所法第7条によって、考試院業の登録手続きの際に、消防設備や避難安全装置などの設置状況と共に消防庁への提出が求められている。
- 3) ソウル歴史博物館により、ソウル市冠岳区新林洞一帯の考試院を対象にした調査報告書^{文11)}では、建物の一部を考試院として運営する施設と、建物全体が考試院である施設に関する記載がみられるが、その用語に関する規定はされていない。
- 4) 図版に関する出典：図1-1、図1-2は研究委員の趙らの掲載論文^{文9)}から抜粋・引用したものである。

＜参考文献＞

- 1) National Fire Agency, Korea : <http://www.nfa.go.kr/nfa/releaseinformation/statistica linformation/main/>, accessed 2020.6.10 (in Korean)
- 2) ソウル市特別市(韓国都市研究所)：非住宅居住世帯に対する住居支援方案を設けるための研究, vol.0, pp.1-367, 2013 (in Korean)
서울특별시 : 비주택 거주가구 주거지원 방안 마련을 위한 연구, 한국도시연구소, 2013
- 3) Shin, S. Y. : Current State and Policy Directions for Quasi-Housing Establishments in Seoul, Seoul Development Institute, 2010 (in Korean)
신상영 : 서울의 준주택 실태와 정책방향, 서울시정개발연구원, 2010
- 4) Jaehyuk Jo, Shintaro Yamanaka : A study on the dwelling style of the GOSICHON in Korea-To focus on usage system

and life pattern in Noryangjin GOSICHON, in Seoul, pp.2356-2359, Proceedings of the 11th ISAIA, 2016

- 5) 趙在赫, 山中新太郎：考試院(コシウォン)の変遷と居住施設の特徴－韓国の考試院密集地における居住形態と地域施設に関する研究_その1, 日本建築学会関東支部研究報告集86(II), No. 5021, pp. 365-368, 2016
- 6) 趙在赫, 建石洋, 永井雄介, 三橋侑平, 山中新太郎：考試院の施設情報と空間構成について－韓国の考試院密集地における居住形態と地域施設に関する研究_その2. 日本建築学会学術講演梗概集, E-1, pp. 1077~1078, 2016.7
- 7) 山中新太郎, 重枝豊, 全映勳, 申相永, 趙在赫：韓国ソウルの考試村の成立過程と居住機能分化に関する基礎的研究-考試院の分布と考試村での生活パターンを中心として, 住総研研究論文集・実践研究報告 No. 44, pp. 145-156, 2018
- 8) 趙在赫, 山中新太郎, 重枝豊：『考試界』掲載廣告を対象とした考試院の分布及び利用者の変化と居住機能の変質, 日本建築学会計画系論文集, 第86卷, 第781号, 2021年3月掲載予定
- 9) 趙在赫, 山中新太郎, 重枝豊：ソウル市内の考試院密集地における考試院の分布と施設形態, 日本建築学会計画系論文集, 第86卷, 第781号, 2021年3月掲載予定
- 10) Seoul Metropolitan Fire and Disaster Headquarters : <https://fire.seoul.go.kr/main/main.do>, accessed 2020.6.10 (in Korean)
- 11) Seoul Museum of History : "Sillim-dong : Daehak-dong, Who have the dream of ambitions, in Seoul", Seoul Museum of History, 2014 (in Korean)
서울역사박물관 : 신림동-대학동 청운의 꿈을 품은 사람들, 서울역사박물관, 2014

＜研究協力者＞

- | | |
|---------|-------------------|
| 喜名 俊雄 | 株式会社 DPGM |
| 中林 誠 | 日本大学理工学研究科 博士前期課程 |
| 許絢 華 | 日本大学理工学研究科 博士前期課程 |
| カン・ミンソク | 早稲田大学政治経済学部 |